

# ビオトープフォーラム in 愛知2019

－ COP10 からポスト愛知へ－

## 実施報告書

日時： 2019（令和元）年6月28日（金） 13：00～16：20

場所： ミッドランドホール（愛知県名古屋市市中村区名駅4-7-1 ミッドランドスクエア5F）

主催： 特定非営利活動法人日本ビオトープ協会 共催： 自然環境復元学会

後援： 環境省、文部科学省、農林水産省、国土交通省、愛知県、名古屋市、豊田市、  
一般社団法人日本造園建設業協会中部総支部、一般社団法人愛知県造園建設業協会、  
矢作川沿岸水質保全対策協議会、環境パートナーシップ・CLUB（順不同）

### ◆フォーラム参加者 計 298 名

|                        |         |        |              |           |        |                         |     |   |
|------------------------|---------|--------|--------------|-----------|--------|-------------------------|-----|---|
| 官庁、共催・後援関係<br>学生・学校関係者 | 32<br>8 | 名<br>名 | 環境団体関係<br>一般 | 15<br>127 | 名<br>名 | 協会員・BA※<br>※ビオトープアドバイザー | 116 | 名 |
|------------------------|---------|--------|--------------|-----------|--------|-------------------------|-----|---|

### ◇総括

日本ビオトープ協会は、今年度で設立 26 年を迎えました。その間、愛知県では 2010 年に「ビオトープと生物多様性」をテーマにビオトープフォーラムを開催させていただきました。今年度再びここ愛知で開催できますことは大変嬉しく、ご尽力をいただきました地元会員、そして基調講演をいただきます愛知県知事大村様始め皆様方に心より感謝申し上げます。

本年度のフォーラムテーマは「COP10 からポスト愛知へ」として、ミッドランドホールを会場に、東北から九州まで全国の同志を集め盛会となりました。また、例年通り講演会に先立ち昨年度の優秀なビオトープを顕彰する表彰式が行われました。

フォーラム開会にあたり青山正尚中部地区委員長、櫻井淳会長よりご挨拶をいたしました。総会、フォーラムが、愛知県始め地元諸団体等のご協力により盛大に開催できること、また、ご講演いただきます愛知県知事大村様、トヨタ自動車株式会社 環境部企画室長 石田様、日本エコロジスト支援協会様、命をつなぐPROJECT 学生実行委員会様に謝意を表し、多様化する生態系インフラストラクチャー事業の社会的要請に寄与するため、地域の自然環境の保全・復元・維持管理の現場で活躍する技術者・ビオトープアドバイザー養成に力を入れると共に、全国 850 名を超えるビオトープアドバイザーネットワークの充実を図り、日頃の研究に加え現場実践を通じて、地球環境の保全に貢献する活動を力強く継続する事等が話され、会員の協力、顧問の先生方のご指導、関係各位のご理解ご支援に感謝の言葉を述べました。

また、開催にあたり諸官庁などのご後援をいただき、ご臨席いただきました環境省中部地方環境事務所長・秀田智彦様、愛知県環境局長・森田利洋様にご来賓を代表してご祝辞を頂戴いたしました。

環境省中部地方環境事務所長・秀田智彦様より、ビオトープ協会に対して、日頃からの生物多様性行政推進への協力に感謝のお言葉をいただきました。2010 年名古屋市での生物多様性条約 COP10 では、「愛知目標」「名古屋議定書」が採択され、生物多様性への関心が高まったが、この 5 月には IPBES（生物多様性および生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム）から「地球規模評価報告書」が発表され、「目標の達成には、大きな社会変容が不可欠」との報告がなされたこと、軽井沢での G20 環境エネルギー関係閣僚会議では、生態系を基盤とするインフラ整備についても議論がなされたこと、2020 年に中国で開催される COP15 に向け、愛知目標下での取組を活かした「ポスト愛知目標」の議論が重ねられていることについてお話をいただき、生物多様性の重要性を人々が理解するには、私たちの暮らしが生きものから得られる恵みに支えられていることを実感する必要がある、そのための「自然体験」の場としてビオトープが果たす役割に期待を述べられました。

愛知県環境局長・森田利洋様より、全国からの多くの参加者に謝意が述べられ、2010 年 COP10「愛知目標」以来、「人と自然が共生するあいち」を目指して様々な取組を進めていること、その中核的な取組は「あいち方式」による生態系ネットワークの形成であること、緑地や水辺のビオトープを作り出すことによって生き物が住める空間をつなげていく取組を、県内各地域において NPO や企業など多様な主体の連携のもとで進めているとの紹介があり、「森と緑づくり税」の一部を使い、これを支援しているとのお話がありました。ビオトープ協会には、生態系ネットワーク形成の要となるものとして、生物多様性保全への関心を高める役割と共に、長年にわたりビオトープ顕彰に取り組んできたことに対して高く評価いただき、ビオトープフォーラムが情報共有や発展の機会となること、また生態系保全・回復などビオトープ創出に協会の果たす役割に大きな期待を示されました。

第 1 部では、「第 11 回ビオトープ顕彰」表彰式が行われ、ビオトープ顕彰委員会委員長である横浜国立大学前学長・名誉教授、自然環境復元学会会長、鈴木邦雄氏の講評と、本年度の各受賞者に櫻井会長から表彰状授与が行われました。引き続き事例発表が行われ、「びおとーぶ堤」「村松ネイチャーわくわくプロジェクト」2 件のそれぞれの地域性を生かした素晴らしい活動事例が紹介されました。

（発表資料：別紙フォーラムレジュメ資料集に掲載、顕彰講評・受賞紹介：協会 WEB に UP、協会誌 44 号に掲載予定）

第2部は、愛知県知事・大村秀章様より「COP10 からポスト愛知目標へ」と題して基調講演をいただきました。産業集積日本一である愛知県の、持続可能な世界構築に向けた戦略的な取組みについて紹介され、特に企業や公共施設、学校など多様なパートナーシップで取り組まれているビオトープの活動事例が、ネットワーク協議会を核として進められ、県民参加型で成果を上げている様子が、四十数枚のスライドで示され精力的なお話をいただきました。また、来年中国昆明で開催されるCOP15に向けた「ポスト愛知目標」の議論への貢献も強く発信されました。

続いて事例報告においては、2015年COP21パリ協定以来、急激な変革が求められる自動車産業にあって巨大企業であるトヨタの取組みは世界からも注目されており、環境部石田栄治企画室長から「トヨタ環境チャレンジ2050」について、トヨタが成し遂げるべき具体的なアクションとして「トヨタの6つのチャレンジ」をお話いただきました。6. 人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジでは、地域をつなぐ自然共生活動、世界をつなぐ環境助成活動、ESDプロジェクト「未来へつなぐ環境教育」の3つのつなぐプロジェクト・パートナーシップで、生物多様性に広く貢献する企業姿勢が紹介されました。

二つ目の事例報告として、NPO 法人日本エコロジスト支援協会理事・事務局長の北村秀行様、命をつなぐPROJECT 学生実行委員の小池まい様、事務局の村田まりな様から「命をつなぐPROJECT」と題してお話いただきました。平成24年「知多半島臨海部の企業緑地における生態系ネットワーク形成担い手育成事業」（生態系ネットワークの形成・次世代の担い手育成）として「命をつなぐプロジェクト」が始動、若者を中心とした活動体制確立を図るため、プロジェクト学生実行委員会を設立し、活動規模も人員も拡大しています。活動フィールドは、知多半島臨海部グリーンベルト（企業緑地群）で、COP10以降、生物多様性に配慮した整備に移行して出光興産・大同特殊鋼・愛知製鋼等企業の水辺ビオトープ7カ所を創造しました。特に離れた企業緑地をつなぐ「アニマルパスウェイ」の設置に努力しておられます。

（講演資料：別紙フォーラムレジュメ資料集に掲載）

閉会の辞は、協会副会長・研修委員長の鈴木元弘理事よりフォーラム参加者と関係者への謝意が述べられ閉会しました。なお、フォーラムの司会進行は、フリーアナウンサー・那須歩実さんにお引き受けいただき、盛会裏に終了することができました。

このフォーラムを通じて、地球環境の改善・生物多様性社会・いのちを知る環境学習・コミュニティづくり等の重要性を再認識し、当協会の役割と責務の大きさを改めて実感いたしました。今後も自然との共生をめざした活動を推進し、持続可能な地域づくりに貢献して参ります。

最後に、皆様のご協力に対し心より厚くお礼申し上げます。今回得られた知識・技術を各地で生かして活動されますことをご祈念申し上げます。

2019年7月吉日

一別紙レジュメ資料集の通り、盛会にて終了いたしました一

### 「ビオトープフォーラム in 愛知 2019」の様子



フォーラム同時開催  
中部地区委員会  
パネル展示の様子